

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472700325
法人名	株式会社 小林留次郎商店
事業所名	グループホーム チェリーホーム油壺
訪問調査日	平成21年2月27日
評価確定日	平成21年3月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1472700325
法人名	株式会社 小林留次郎商店
事業所名	グループホーム チェリーホーム油壺
所在地	238-0225 三浦市三崎町小網代1331-1 (電話) 046-880-1188

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年2月27日	評価確定日	平成21年3月28日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 6人, 非常勤 7人, 常勤換算 5.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ALC平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(400,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1300 円			

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	7名
要介護1	1名	要介護2	3名	
要介護3	3名	要介護4	2名	
要介護5	名	要支援2	名	
年齢	平均 86.3 歳	最低 79 歳	最高 95 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	まつもと内科クリニック
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護については個人経営のオーナーが、ご自分の夢とポリシーを持って手作りで運営しており、血の通った温かい風土が形成されている。チェリーホームグループとしてはこのホームを含め、計3箇所のグループホームを運営している。ロケーションは京急油壺マリンパークの手前300mにあり、風光も明媚なところである。ホームはゆったりとした作りでリビングは日当たりが良く、個室は各室に洗面所とクローゼットがある。介護計画はセンター方式をベースとし、アセスメントの充実を図り、カンファレンスの後作成している。個人別介護計画は先ずアセスメント方針(私たちが願うこと、そしてめざすこと)を1人ずつ作り、後述のように1枚のファイルにまとめ、その方針に沿った介護計画を作成している。方針が明確であり、極めて分かり易い展開である。防災について、危機管理体制の充実として、此处では年間の教育計画の一環として位置付けられており、実際の演習を伴う計画が他の教育項目と一緒に展開されている。危機管理体制の充実では備蓄リスト、防災、感染症、ヒヤリハットなどが職員の段階で活用出来る体制を心がけスキルアップに繋げている。リビングに掲示した「お品書き」で飲み物を選べる配慮は心の自立の役にたっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>この1年間は事故の予防、介護レベルの向上、スタッフの自己啓発に重点を置いて取り組んだ。特に介護レベルの向上については、個人別目標の来歴が増え、個人ファイルに張り切れなくなったので、各個人の今の支援項目を1枚の「個人ケア一覧表」纏め、ケースに入れて見やすくして活用している。ケアの方針には体のケアと心のケアがあり、特に心のケアでは自分から要求を出す、それによりここにいて良かったと思える満足感を考えて、「お品書き」もその1つと考えている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価については、職員に評価を意識し、前述介護レベルの向上に役立ててもらふことと、日常、常識となり、忘れがちな項目の確認のために、マンネリ打破のために活用してもらっている。自己点検の面では完成と云うことはなく、常に改善・向上に向けて活用していくことにしている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は平成18年8月に他に先駆けて実施して以来、コンスタントなペースで開催している。メンバーは三浦市の高齢介護課の課長さん、地域住民代表、家族代表、利用者と事務局(施設代表)が参加している。多忙な方が多いため、開催には苦慮しつつも2ヶ月に1回の開催を継続している。地域との密着については、近くの職員の知り合いとの繋がりや近隣の方々との交流の中から徐々に拡大して行くよう努力中である。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族に関しては毎月1回、家庭通信を作成してお送りすることになっている。ご家族とは充分コミュニケーションはとれていると感じているが、詳細に文書でお知らせすることにより、1人1人のケアの充実と日頃の状況を知って頂ければと考えている。究極の目的としてはご家族がホームに対し話し易い関係作りにあると考えており、その関係の構築を進めている。</p>
	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>前述の運営推進会議などを通じ、常に窓口を開き、機会を作るように努めている。具体的な活動としては高校生のボランティア体験学習の受入れ(X'masの飾り付けのお手伝い等)をしたり、知り合いの美容師の方が休日を利用してカットに来てくれたりしている。、食事は自分たちで考えたメニューを地元の生協から食材の仕入れをし、地元商店の活用と連携を図りつつ美味しい食事を提供することに努めている。シーボニア・マンション群のお祭りへの参加などもしている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域において、認知症ケアの拠点となり得るよう、日常の活動の中から、そして運営推進会議なども通じ、事業所としての理念作りをしている。理念は介護の現場に生かされるものでなければならない、また日々の活動の中から作り上げていくもので、これで完成ということではなく、継続して追求して行く。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月一度のスタッフ会議で常に”私たちのめざすもの”として確認し、日々の業務に反映させるよう努めている。理念は介護の現場に生かされるものでなければならない、また日々の活動の中から作り上げていくもので、これで完成ということではなく、継続して追求して行く。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議等を通じ、常に窓口を開き、機会を求めている。さらに広く、そして深いつきあいができるよう努めたい。シーボニア・マンション群のお祭りへの参加などもしている。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価により自己点検することで、独善に陥ることなく、ホームや介護の質の一層の向上を目指している。これで完成ということではなく、常に改善、向上に活用したい。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年度の発足以来、毎年運営推進会議に積極的に取り組み、ホームの活動を知っていただくとともに、地域や外部の声を取り込むことによってホームの質向上に努める。運営推進会議そのものをさらに充実した会議とし、一層成果を挙げサービス向上の推進力の一つとしたい。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム連絡会なども通じ、市との話し合いの機会を設け、市とともにホーム自身も含め地域の福祉向上に努める。市にも一層事業所の活動に理解を深めてもらい、より良いものに向けて意見を交換して行きたい。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月々の家庭通信に暮らしぶりや健康状態やケアの取り組み具合を報告し、常にご家族に状況を知っていただくようにしている。ご家族の求めているもの、希望等をきめ細かく実現していく為にも、ご家族との交信は大切にしていきたい。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に投書箱を常設し、意見・苦情を受け付けている他、家族の方々が面会に来られた機会を捉え、積極的に意見・感想を求め、それを日々の業務に生かすように努める。家族とホームの間が風通しの良い関係であること・方法を常に求めていきたい。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	幸い異動や離職がほとんどなく、もしあったとしてもチームケアの利点を生かし、ダメージの発生を最小限におさえる努力がなされる。サービスの質の確保の根本は、利用者や職員の馴染みの確保であり、更に利用者や職員間の融和・信頼関係を確保することに最善を尽くしている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設としての研修計画があり実践しているが今後は更に内容の充実発展に努めたい。管理者・ケアマネは参加する機会を確保しているが、介護職員については来年度は外部研修に積極的に参加させ、合わせて施設内の普及研修につなげ介護のレベルアップに努めたい。	○	介護職員についても来年度は外部研修に積極的に参加させ、合わせて施設内の普及研修につなげ介護のレベルアップに努めて行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の研修会及び同業者の施設を見学・研修しサービスの向上に研鑽している。管理者・介護支援専門員は自発的に県・市の研修会に参加し努力研鑽している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所を含め、先を急がずゆっくり馴染めるよう家族との話し合いや環境作りを重視している。事前に施設への入所を短時間でも体験していただき、施設はある程度個性を把握し表情や笑顔を確認してから入所して頂きサービスを少しずつ開始している。又職員間の連携を密にし本人の情報を共有している。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はお年寄りとの会話など、日々の関わり合いの中から、人生の先輩としての知恵を学ぶことも多く、互いに与え合い支え合うという関係を築いている。人と人との関わり合い、関係とはここまでとか、これで良しというものではない。常により良い、より深めあうものを求めている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言葉だけでなく、表情や態度などからも意思を捉えられるよう、職員間の連絡・話し合いを密にしている。これで完全と言うことはなく、常に努力を続けたい。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	多様な視点からの意見を持ち寄り、それらを反映した介護計画となるよう、意見の出しやすい環境作りをしている。チーム自体がより質の高いものとなることも含め、努力を重ねたい。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護の現場の状況が介護計画の根拠であり、介護計画が現場の指針となるよう、常に点検を怠らないようにする。介護計画の良し悪しがご本人の状態の反映でもあり、常に点検と観察を継続していく。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一日24時間、ご本人の生活の中に起こる一つ一つの課題に対応できるよう、様々な工夫を職員間の協力で行う。本人より突然自宅の物品等が気になり帰宅願望が発生した場合は家族と相談し臨機に対応している。又帰宅したけれど馴染みの職員がいる施設に早く帰りたいと言われるほど良好な関係を確保・維持している。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、かかりつけ医、そして事業所との情報の流れを滑らかにすることにより、支援を行う。介護保険制度の医療連携制度を活用し利用者さんは継続的に医療が受けられるよう支援している。なお、医療連携については本人・家族の承諾を得ている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアに備え、主治医や経験豊かな他の事業者との話し合いをし、その時に十分な対応が可能なよう努める。		他の事業者たちとの学習会を構想中。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権尊重や守秘義務についての学習や話し合いを職員会議等で意識的に行っている。日々の業務の中で、常に遵守されるよう一層努める。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いが常に優先されるとの認識を職員が介護にあたっての原則とするよう、話し合いと学習を続けている。介護という行為のあり方を巡って点検と反省を怠ることなく、前進したい。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はお年寄りの最大の楽しみの一つ。各人の好みを把握し、日々のメニューに活かし、また自己決定や自立を支える機会としてとらえている。食事を通じ、自立支援につながる可能性の追求を図っている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在自立して入浴が出来る方はおらず、危険を伴う入浴を出来る限り快適に、そして楽しめるよう個々に工夫している。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の好みや得意なことを、ご本人やご家族の話などを通じ、とらえ、個性を活かした楽しみ・気晴らしの機会を作っている。後になってその方の意外な面が知れるなど、長い人生において築いたすべてをとらえることは難しくもあり、興味深くもある。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外に出ることは、とても大切な気晴らしであり、その開放感は心の励ましであり、喜びであるとし支援している。施設としては単独での外出に対する対応は出来ている。(警察・駅・病院・町内会・近隣等に依頼済み)		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の職員が一人となる時間帯を除き、鍵はかけていない。見守りの重視により、今後も鍵をかけない見守り強化の介護を継続する。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員会議で恒常的に取り扱う他、運営推進会議で地域の代表者や市職員と話し合いの機会を設けている。毎年消防署への通報訓練・職員の緊急呼集訓練及び火災訓練(昼間想定・夜間想定)を実施し成果を上げている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が常に食事量や食べ方などをチェックし、体調管理の一つとして重要視している。利用者一人ひとりの食事・水分の一日の摂取量を把握しバランスを確保するよう努力している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を演出する飾り物や生け花等で心安らぐ空間作りをしている。職員は利用者の要望を尊重し利用者と共に居室の配置変えを行ったり、又食堂の配置を変更し環境の整理・整頓を実施し心地よい環境を目指して常に工夫し努力している。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の意思・希望を尊重し、過ごしやすい空間を演出していただいている。利用者それぞれの好みに応じて居室内の環境を作成・維持している。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム チェリーホーム油壺
所在地 (県・市町村名)	神奈川県三浦市三崎町小網代1331-1
記入者名 (管理者)	管理者 赤田 清比古
記入日	平成 21 年 2 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	理念は介護の現場に生かされるものでなければならず、また日々の活動の中から作り上げていくもので、これで完成ということではなく、継続して追求していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念は介護の現場に生かされるものでなければならず、また日々の活動の中から作り上げていくもので、これで完成ということではなく、継続して追求していきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	様々な方法を模索しつつ、より一層の浸透を目指したい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	さらに広く、そして深いつきあいができるよう努めたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	さらに広く、そして深いつきあいができるよう努めたい。
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の認知症ケアの拠点となり、地域の人々の暮らしの一部となり得よう運営推進会議等を活用し、努める。	○	地域において点が面となり、広がりを持つように努めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価により自己点検することで、独善に陥ることなく、ホームや介護の質の一層の向上を目指している。	○	これで完成ということはなく、常に改善、向上に活用したい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年度の発足以来、毎年運営推進会議に積極的に取り組み、ホームの活動を知っていただくとともに、地域や外部の声を取り込むことによってホームの質向上に努める。	○	運営推進会議そのものをさらに充実した会議とし、一層成果を挙げサービス向上の推進力の一つとしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム連絡会なども通じ、市との話し合いの機会を設け、市とともにホーム自身も含め地域の福祉向上に努める。	○	市にも一層事業所の活動に理解を深めてもらい、より良いものに向けて意見を交換して行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する講習に参加し、その報告を元にスタッフ会議で話し合いを通じ、理解を深めている。	○	現実にまだ制度の活用はなく、いずれ必要となる場合に向け関心を持ち続けたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に虐待や拘束の危険を認識し、職員間で確認し、防止に努めている。	○	無意識の内に虐待や拘束に陥る危険性は常に存在し、点検を怠ることは出来ない。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を心がけ、話しやすい雰囲気作りに努めている。	○	相手にとって理解しやすく、かつ必要十分な説明であるかは難しく、それに向けて努力したい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との信頼関係を築くことが第一との認識を職員間で共有し、利用者の訴え、思いを真剣にとらえ実現を目指している。	○	認知症であっても、また認知症であるからこそ言葉だけでなく、表情などからの訴えを敏感に受け止める体制でありたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月々の家庭通信に暮らしぶりや健康状態やケアの取り組み具合を報告し、常にご家族に状況を知っていただくようにしている。	○	ご家族の求めているもの、希望等をきめ細かく実現していく為にも、ご家族との交信は大切にしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に投書箱を常設し、意見・苦情を受け付けている他、家族の方々が面会に来られた機会を捉え、積極的に意見・感想を求め、それを日々の業務に生かすように努める。	○	家族とホームの間が風通しの良い関係であること・方法を常に求めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議はもちろん、日々の申し送り時など、職員が意見を述べやすい環境を作り、意見を尊重する姿勢を保っている。	○	互いに意見を述べやすく、そして独善に陥ることなく、質の高いサービスを求め続ける組織を目指している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	介護職の人材難が問題になる中、当ホームは比較的ゆとりのある体制がとられ、管理者も常に現場に入れるようになっていく。	○	様々な可能性に向け、対応策を検討し続けたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	幸い異動や離職がほとんどなく、もしあったとしてもチームケアの利点を生かし、ダメージの発生を最小限におさえる努力がなされる。		サービスの質の確保の根本は、利用者や職員の馴染みの確保であり、更に利用者や職員間の融和・信頼関係を確保することに最善を尽くしている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

5. 人材の育成と支援

○職員を育てる取り組み				管理者、ケアマネは参加する機会を確保して、アポイント
-------------	--	--	--	----------------------------

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設としての研修計画があり実践しておりますが今後は更に内容の充実発展に努めたい。	○	管理者・ケアマネは参加する機会を確保しているが、介護職員については来年度は外部研修に積極的に参加させ、合わせて施設内の普及研修につなげ介護のレベルアップに努めたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の研修会及び同業者の施設を見学・研修しサービスの向上に研鑽している。		管理者・介護支援専門員は自発的に県・市の研修会に参加し努力研鑽している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のメンタルヘルスを中心に考えており、運営者が自ら定期的に個別に面談している。		定期的に職員一同と親睦会を行う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は利用者との懇談及び家族との電話での対応で地域密着型での職員の勤務状況を認識すると共に、平素の勤務状況を把握している。又職員は理念に基づき自由に働けるよう配慮している。	○	職員はそれぞれの特技(歌・絵・生け花・ドライブ等)を活かし利用者の生活の継続性を支えることに貢献し、又体制をつくっている。

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	話し易い雰囲気作りに努め、また体験入所なども含め、互いの理解と不安の解消に努めている。	○	様々な場面を想定し、安心と理解を得る努力を続けたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	可能な限り時間をかけ、話し合いと現場の姿を実体験していただくことで、安心と信頼を得る努力をしている。	○	様々な場面を想定し、安心と理解を得る努力を続けたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の希望されていることと、ホームの目指すこととの一致が得られるよう初期の対応を慎重にし、大切にしている。	○	私たちの施設の長所・短所を率直に説明しご理解を仰ぎ、状況により他の施設を紹介し、抱え込まないよう配慮している。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所を含め、先を急がずゆっくり馴染めるよう家族との話し合いや環境作りを重視している。	○	事前に施設への入所を短時間でも体験していただき、施設はある程度個性を把握し表情や笑顔を確認してから入所して頂きサービスを少しずつ開始している。又職員間の連携を密にし本人の情報を共有している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はお年寄りとの会話など、日々の関わり合いの中から、人生の先輩としての知恵を学ぶことも多く、互いに与え合い支え合うという関係を築いている。	○	人と人との関わり合い、関係とはここまでとか、これで良いというものではない。常により良い、より深めあうものを求めています。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には定期的にご本人のご様子を伝え、知っていたき、面会などで来られた際には必ずご意見を伺うようにしている。	○	人と人との関わり合い、関係とはここまでとか、これで良いというものではない。常により良い、より深めあうものを求めています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族が来られた時の場作り、また帰宅される時の心づもりなど、ご本人とご家族の関係を暖かく支援する。	○	人と人との関わり合い、関係とはここまでとか、これで良いというものではない。常により良い、より深めあうものを求めています。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の代わりに電話連絡などをし、交流作りを支援したり、馴染みの場所への訪問を支援している。	○	人と人との関わり合い、関係とはここまでとか、これで良いというものではない。常により良い、より深めあうものを求めています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ゲームや歌、そしておしゃべり、また共に協力して家事をするなかで喜びや支え合いを通じて、関わり合いを強めている。	○	人と人との関わり合い、関係とはここまでとか、これで良いというものではない。常により良い、より深めあうものを求めています。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ひとつの人生を巡って築かれた関係・縁は得難い大切なものと認識し、大切にしていきたいと願っている。	○	人と人との関わり合い、関係とはここまでとか、これで良いというものではない。常により良い、より深めあうものを求めています。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言葉だけでなく、表情や態度などからも意思を捉えられるよう、職員間の連絡・話し合いを密にしている。	○	これで完全と言うことはなく、常に努力を続けたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の語られる昔のお話や、ご家族からお聞きする情報を職員間で共有し、日々の介護に生かすよう努める。	○	これで完全と言うことはなく、常に努力を続けたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	夜間帯も含め、小さな異変にも常に気を配り、職員全体で情報収集と話し合いを密にしている。	○	これで完全と言うことはなく、常に努力を続けたい。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	多様な視点からの意見を持ち寄り、それらを反映した介護計画となるよう、意見の出しやすい環境作りをしている。	○	チーム自体がより質の高いものとなることも含め、努力を重ねたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護の現場の状況が介護計画の根拠であり、介護計画が現場の指針となるよう、常に点検を怠らないようにする。	○	介護計画の良し悪しのご本人の状態の反映でもあり、常に点検と観察を継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきは記録によって共有され、そして時間を経ても失せず、次の段階へのステップとなることを職員間で確認している。	○	記録のあり方自体も、より良いものを目指し改善を続けたい。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一日24時間、ご本人の生活の中に起こる一つ一つの課題に対応できるよう、様々な工夫を職員間の協力で行う。	○ 本人より突然自宅の物品等が気に入り帰宅願望が発生した場合は家族と相談し臨機に対応している。又帰宅したけれど馴染みの職員がいる施設に早く帰りたいと言われるほど良好な関係を確保・維持している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を手がかりとし、地域資源との協働を目指し、現在防災面での話し合いも進めている。	○ まだまだ地域への働きかけが不十分と認識し、力を注ぎたいと感じている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現実にサービスの利用まではいっていないが、他のケアマネジャーや事業者との話し合いの窓口はあり、具体的な活動を目指している。	○ 施設だけで抱え込んでいないか常に現状を点検している。なお本人家族等より要望があれば直ちに対応できる。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在地域包括支援センターとの交流はないが、権利擁護の面も含め、ホームに求められる地域での役割も果たしたい。	○ 利用者個々の権利擁護等に関する事項が発生した場合は行政(地域包括支援センター)と協力・支援を仰ぐ体制は確保している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、かかりつけ医、そして事業所との情報の流れを滑らかにすることにより、支援を行う。	○ 介護保険制度の医療連携制度を活用し利用者さんは継続的に医療が受けられるよう支援している。なお、医療連携については本人・家族の承諾を得ている。
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけの医師や老人医療に詳しい主治医との関係をもとに支援をすすめている。	○ 家族の意見・希望を最優先に今後も個別支援を実施する。
	○看護職との協働		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週一回なじみの看護師が来て、昼食を共にし様子の観察を受けている。そして問題があればその場で主治医に連絡し、指示を受けている。		毎日の生活の中から個別の健康管理を実施している。又即応体制に迅速に対処出来る状況を確認している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の病院を職員が適宜訪れ、病院関係者との連絡を密にし、連携している。		入院した際は努めて短期間に入院目的が達成するよう病院サイドと家族を含め話しあっている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアに備え、主治医や経験豊かな他の事業者との話し合いをし、その時に十分な対応が可能となるよう努める。	○	他の事業者たちとの学習会を構想中。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	様々な自体が想定される終末期には、ホームの職員のみでの対応は不十分であり、主治医やホーム看護師などの医療専門職などとの連携は不可欠と考え、準備する。	○	他の事業者たちとの学習会を構想中。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	局宅支援事業者や施設等ケア関係者、そしてご家族との話し合いや、情報交換を住み替えの前で積み重ねることによりダメージ防止に努める。		相手先の要望にこたえと共に事前に本人のサマリー・習慣・好み及び介護の工夫等を個人情報保護法に配慮しつつ通知し協力している。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権尊重や守秘義務についての学習や話し合いを職員会議等で意識的に行っている。	○	日々の業務の中で、常に遵守されるよう一層努めたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	例えばお茶を何にするのか、緑茶、麦茶、紅茶、コーヒーなどから選択することを通じて、ご自身の気持ちを確認し、表出することによって自己決定できる力を支援している。	○	生活のあらゆる場面で、判断し決定していく事柄を豊かにしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いが常に優先されるとの認識を職員が介護にあたっての原則とするよう、話し合いと学習を続けている。	○	介護という行為のあり方を巡って点検と反省を怠ることなく、前進したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	何をどのように着るのかということも、その人らしさの表現であり、権利であるという事を職員間で確認し、支援に努める。	○	認知症が進む中でも、可能な限りご本人の思いを汲み取る姿勢をとり続けたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はお年寄りの最大の楽しみの一つ。各人の好みを把握し、日々のメニューに活かし、また自己決定や自立を支える機会としてもとらえている。	○	食事を通じ、自立支援につながる可能性の追求を図る。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医の意見も聞き、ご本人の嗜好を取り入れ、楽しめるよう支援する。	○	喫煙については火災予防上場所の制約がありますが、現在は喫煙者は在籍しない。将来に向けての準備は出来ている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	極力おむつに頼ることなく、トイレでの自然な排泄が出来るよう、排泄パターンの把握も含め、様々な工夫をしている。	○	一人一人につき、自然な排泄につながるよう、工夫や努力を続けていきたい。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在自立して入浴が出来る方はいらっしゃらず、危険を伴う入浴を出来る限り快適に、そして楽しめるよう個々に工夫している。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お昼寝をとられる方、とられない方、また早く就寝されたい方、その反対の方と様々であり、健康状態にも留意し支援している。	○	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない利用者さんには日中の活動に配慮している。なおどうしても眠れない夜は職員が話し相手をしたり飲み物を提供するなどし安心して眠りにつけるよう心がけている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の好みや得意なことを、ご本人やご家族の話などを通じ、とらえ、個性を活かした楽しみ・気晴らしの機会を作る。	○	後になってその方の意外な面が知れるなど、長い人生において築いたすべてをとらえることは難しくもあり、興味深くもある。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自ら所有し、自由に使えることはその人にとって大きな喜びの一つであり、そのような認識を持って取り組んでいきたい。	○	施設としては利用者が暮らしの中でお金を所持することへの対応は出来ている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外に出ることは、とても大切な気晴らしであり、その開放感は心の励ましであり、喜びであるとし支援している。	○	施設としては単独での外出に対する対応は出来ている。(警察・駅・病院・町内会・近隣等に依頼済み)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族・知人などにご本人の意向を伝えるとともに、協力を仰ぎ、楽しい機会の実現に向け、支援している。	○	利用者の健康状態を検討し努めて行きたい場所には率先して支援している。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人のご希望により、電話の取り次ぎや手紙の宛名の代筆などで支援している。	○	それとなく会話で誘導し家族等に通話のチャンスを作り対応している。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された際の職員の対応、また居室等居心地の良い場面作りを大切に、心がけている。	○	個別の外出及び施設の計画で全員でドライブ・花見・食事会等を実施しておりますが、事前に連絡頂ければ訪問優先に対応する。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等で常に自らのケアをチェックし、確認を怠らず、また身体拘束に陥らないよう学習を重ねている。	○	施設においては介護保険制度を遵守し車椅子の安全ベルトの使用やベツト柵(4本)の使用等は行動を制限する拘束の範囲と考え、創設時より廃止し「事故防止のための拘束」ではなく「どのようにすれば拘束しないで安全を確保できるか」という視点で見守りの強化で質の高いサービス提供を目標に切磋琢磨している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の職員が一人となる時間帯を除き、鍵はかけていない。		見守りの重視により、今後も鍵をかけない見守り強化の介護を継続する。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間の連携を密にし、常に想定される危険性を認識し、安全に配慮している。		利用者の状況(特徴)を把握しており、見守りの強化により確認しやすい位置で行動前の状況を察知し安全を確保している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	隠す、見えなくすればそれで事足りるという発想ではなく、危険が起こる過程を考慮し、生活の多面性を見る。		薬も洗剤も管理できない状況ですが、将来管理の出来る方が入居された場合は個人で管理していただく。薬等の管理は状況により対応していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のミーティングでの取り組みや、それらをまとめ確認し、次の対策を毎月の職員会議で重点的に扱っている。	○	行政の計画に参加した職員による普及教育を実施している。又介護福祉士(施設職員)により毎年レベルアップを図るよう努力している。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時にどのように対応するかは、その可否が命に関わることもあるので、常に意識し適切な処置が出来るよう、毎月の職員会議で取り上げている。	○	ほとんどの職員が普通救命講習を受けており応急手当の準備は出来ている。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員会議で恒常的に取り扱う他、運営推進会議で地域の代表者や市職員と話し合いの機会を設けている。	○	毎年消防署への通報訓練・職員の緊急呼集訓練及び火災訓練(昼間想定・夜間想定)を実施し成果を上げている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会の折りをとらえ、また月々のご家族へのお便りを通じ、現時点でのリスクとその対応策を説明し、理解を得ている。	○	利用者の安全を確保し自由な抑圧の無い生活を確保する反面リスクが予測されます。この件で家族に了解を頂いている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日中における体調の観察はもちろん、夜間の様子もあわせ異変の早期発見に努め、看護師や主治医との連携を密にする。	○	職員は些細なことでも神経を傾注対応している。一日二回(勤務交代時)の引継ぎの際は細部に亘り情報共有・交換をする等対応している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のあり方と、体調・症状の関連には慎重な対応が欠かせないことを常々職員間で確認しあっている。	○	服薬については利用者さん全員自己管理が不可能であり全面的に支援している。日常の変化・状況については細部に亘り看護師・医師に通報するよう努力をしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維や乳酸菌などにより便通の改善を図ると共に、この排泄状況を毎日チェックし、運動や日光浴も取り入れている。	○	自然排便を促すため水分補給・繊維食品及び運動の追加等毎日の生活の中で継続的に対応している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを励行すると共に、毎週一回歯科医師による往診を受けている。	○	歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい・入れ歯の消毒及び出血や炎症のチェック等利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう口腔の清潔を日常的にそれとなく支援している。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が常に食事量や食べ方などをチェックし、体調管理の一つとして重要視している。		利用者一人ひとりの食事・水分の一日の摂取量を把握しバランスを確保するよう努力している。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	様々な感染症に対するマニュアルの整備や、また季節毎に懸念されるものにつき、職員会議でも対応策を話し合っている。		マニュアルにより対応しているが、市内の同業者及び保健所よりその時期の情報を期待している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事はお年寄りの大きな楽しみの一つでもあり、健康維持に大切なものとの観点からも、食材の管理等に注意している。		衛生管理マニュアルがありその通り対応している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	夜間・職員が一人になるなど安全面に問題のある時間以外、鍵もかけず、また飾り物等で親しみやすさに努めている。		園芸に詳しい職員が常に四季折々の花々をホームの玄関周り・庭などに植えて家庭的な雰囲気心をかけている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を演出する飾り物や生け花等で心安らぐ空間作りをしている。		職員は利用者の要望を尊重し利用者と共に居室の配置換えを行ったり、又食堂の配置を変更し環境の整理・整頓を実施し心地よい環境を目指して常に工夫し努力している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が広々としていることで、テーブル席、ソファ、和室と様々な活用が可能となっている。		自由に利用者同士、または家族と使用できるよう常に配慮している
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の意思・希望を尊重し、過ごしやすい空間を演出していただいている。		利用者それぞれの好みに応じて居室内の環境を作成・維持している。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>感染症予防の観点からも換気や温度・湿度の管理には注意を払っている。換気は最低午前と午後各1回は行い、温度・湿度はフローアールと老化でチェックしている。</p>	<p>居室の暖冷房はそれぞれの利用者の自由ですが健康管理のため職員はそれとなく室温を見守っている。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>老化には手すりが備えられ、車イスでも余裕のあるトイレ、また歩行が難しい方には夜間にPTイレ設置などで可能な限りご自分の力を生かしていただいている。</p>	<p>職員の見守りに守られ、施設内を移動できるよう工夫している。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>職員は一人ずつ出来ること、出来ないこと、分かること、分からないことを把握し、自立を支援しつつさりげない介助に努めている。</p>	<p>入居者が残された力を自然に発揮していけるように毎日の暮らしの中にその仕掛けを作ることはケアの大事な基本であり職員は常に心している。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>幸い安全に楽しめる広い庭などの空間があり、日光浴や庭いじりなどの活動が可能である。</p>	<p>ホームの庭では日向ぼっこやお茶を頂いたり、外出とは別に毎日のように楽しく利用している。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症介護という難しく、学んでいかなければならないことの多い仕事ではあるが、幸い長く務めている職員が多く、この困難な仕事にチームワーク良く取り組んでいる。

入居者の方々が心安らかに暮らせるホーム、自分自身または自身の身内が認知症となっても安心して入居できるホームを目指し、職員一同少しずつでも前進し、質の高いケアを求め続けている。